

啐啄同機



大阪市立榎本小学校

8月27日

NO、16

ガラスの天井

子どもの学力を伸ばしたいと思わない保護者はいない。わが子の学力が伸びないと悩む保護者の特徴の一つに、子どもの可能性を低く見積もるということがあります。

タイトルの「ガラスの天井」という言葉をお聞きになった方もいらっしゃると思います。蚕の実験が有名なのですが、20cm 近くジャンプできる蚕にガラスの天井をかざし、しばらくして天井を外しても、蚕は高く飛ぶことができなくなります。同じように、保護者が天井の高さを決めてしまうと、子どもは其中でしか跳ぶことができなくなってしまいます。

人間の能力は無限大なので、周囲の大人が限界を決めない方がいいのです。周囲の大人の期待や失望が、子どもにどれほどの大きな影響を与えるかは、ピグマリオン効果として広く知られています。

比叡山の修行で最も厳しい十二年籠山行満行を果たした宮本祖豊住職は、修行の一つである好相行の五体投体（3千の仏様の名前を唱えながら、額、両肘、両膝を床につけて立ってはまた体を曲げて礼拝する。15時間かかる修業）で、体力的、精神的に限界がきて死を何度も意識したとそうです。そんな時に「もう一回だけやろう」という気持ちを持って3回繰り返すと「なんだ、できるではないか。」と力が出てくる。限界は自分が作っているだけで、本当の限界はもっと先にある、と言います。あきらめることなく、続けることが大事です。

「小さなことを積み重ねることがとんでもないところへ行くただ一つの道」という言葉を残したのは、イチロー選手です。

高い目標を立てることは必要です。しかし、高すぎる目標は挫折を生みます。今より少し高いところに目標を自分で立てさせて、「できた」という達成感を感じさせる。そうすることで、あきらめることなく努力する態度が身につきます。

「うちの子は、やればできるんです。」という人がいます。その通りです。諦めることなく、コツコツとやれば誰でもできるのです。

学力が伸びない子は、やらないのではありません。やれないのです。コツコツと努力ができないのです。「努力ができる」これは立派な才能です。

結果だけでなく、過程を認めて誉めてあげてください。お子さんは、きっと素晴らしい成果を上げるはずです。



榎本小学校 校長 篠崎 勇